

(様式3)

【学校用】

ふるさと教育 取組事例

学校名	出雲市立窪田小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
3・4	総合的な学習 の時間	窪田の自然について考えよう	ひと(しまね海洋館アクアス、島根県 環境保健公社、神戸川小学校、神戸川 漁協組合、島根県下水道推進課) もの・・・神戸川
ねらい		地域を流れる神戸川の環境に関心をもち、川の環境について繰り返し考えることを通して、神戸川の環境や自然にかかわる方の思いや願いを理解し、自分たちが神戸川の環境を守っていくためには何ができるのか考えるとともに、ふるさと窪田の自然豊かな環境に感謝の気持ちをもったり、大切にしていきたいという思いをもったりできるようにする。	
1 取組の概要			
<p>(1) 「今年も学校の近くの神戸川がきれいなのか調べたい」と思った3・4年児童は、1, 2学期に専門家の方を招いて川の水質調査を行った。</p> <p>(2) 下流はどうなっているのか調べるために、同じ神戸川流域にある小学校とのオンライン交流を行い、下流の水質はあまりよくないことを知った。児童は、上流に住む自分たちがもっと川の環境をよくすれば、下流の環境もよくなるのではないかと考えた。</p> <p>(3) 自分たちにできることを考えるために、漁協組合の方や下水道課の方にお話を聞いた。</p> <p>(4) 川のゴミ拾いを実施したり、より多くの方に川の環境をよくしてもらうためのポスターを作ったりしたいという思いをもち、年度末に実施する計画を立てている。</p>			
2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。 (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)			
<p>(1) 地域の自然の豊かさに気付けるように、専門家に協力を得ながら、川の水質調査を複数の方法で行った。また下流域にある小学校とオンライン交流を行い、互いの調査結果を比較することで、ふるさとを流れる川の環境のよさに気付くことができるようにした。</p> <p>(2) 現在の川の様子だけではなく、昔の川の様子について、長年、川に関わっておられる漁協組合の方にお話を聞くことで、川の環境を守るために尽力されている方の思いに気付き、子どもたち自身にも「守りたい」「もっとよくしたい」という気持ちをもてるようにした。</p>			
(学力育成の視点から)			
<p>(1) 実際に川に行って水質調査をしたり、専門家の方に話を聞いたりする中で、子どもたちに「～はどうしてだろう?」「もっと知りたい」という気持ちが生まれ、常に課題意識をもちながら主体的に学習が行えるようにした。</p> <p>(2) 情報収集の際には、本やインターネットだけで調べることに限界があった。子どもたちにどうすればよいか問うと「地域の○○さんに聞けばよい」「～の専門家の方がいないかな?」という話になったので、なるべく多くの方と関わり、課題解決につながる内容や思いに気付けるように計画を立てた。</p> <p>(3) 調べたことを伝える際には、主に国語科の内容と関連させ「グラフ、絵、写真」等を使って聞き手や読み手にとってより分かりやすく表現できるようにした。</p>			
3 児童・生徒に見られた変容(どのような力が身に付いたか等) (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)			
<p>(1) 専門家と一緒に川の水質調査を3つの方法(指標生物、COD、透視度)で行い、客観的な理由をもとに地域の水質のよさについて知ることができた。</p> <p>(2) 長年、川に携わっておられる漁協組合の方のお話を聞き、昔は今より予想以上に川の環境がよかったことを知り、昔の環境を目指したいと思う気持ちが芽生えた。そして、自分たちに何</p>			

*取組の様子がわかるような写真を数枚貼り付けてください。

(このデータをHP等に掲載することがありますので、写真は必ず承諾を得たものを貼り付けてください。)

ができるのか考え、実際に行動したいという実践意欲が高まった。

- (3) 川の調査や専門家、同じ川の流域にある小学校とのオンライン交流を通して、地域の豊かな自然のよさや課題について気付くことができた。

(学力育成の視点から)

- (1) 自分たちの知りたい、やってみたいという思いから課題を立て、それを解決するためにはどうするのか考えながら主体的に取り組むことができた。
- (2) 課題解決に向けて、本やインターネット、児童、保護者向けのアンケート調査をすることで複数の視点から環境について考えることができた。
- (3) 児童、保護者へのアンケート調査では、結果からどのようなことが言えるか分析を行うことで、地域の方の思いを感じたり、自分たちができることがより明確になったりした。
- (4) ICT(調べ学習、パワーポイント等)を使い、情報を集めたり、グラフ等の資料を示したりしながらより分かりやすく伝えるための工夫について考えることができた。
- (5) 教科横断的な学習を行い、他教科で学んだことを活用することができた。
- ① 4年生・・・社会科(上下水道)、国語科(アンケート作成、分析)等
- ② 3年生・・・国語科(調べたことをレポートに書く、ローマ字入力)等

4 課題や今後の展望

- (1) 1年間の活動で振り返りの紙が増え、いつどのような学びをしたのかが児童も教師も分かりにくかった。そのため、タブレット端末に毎回、振り返りを入力・整理するなど、子どもたちの学びの過程が分かりやすくなるとよかった。
- (2) 子どもたちの思いではなく、教師主導で活動を進めたことがあった。例えば、子どもたちが課題解決の段階で悩んだ際に教師が「〇〇はどう?」と提案することが何度かあった。教師側から提案するのではなく、子どもたち自身がどうすればよいか悩み、子どもなりの解決策を考えることで、課題に対してより自分ごととして考えられるようになる。子どもの思いをもとに常に軌道修正しながら、活動を進めていくことをもっと大切にできるとよかった。
- (3) 今後は、『自分たちにできることをする』という単元のゴールに向けて、川のゴミ拾いを実施したり、より多くの方に川の環境をよくしてもらうためのポスターを作ったりしながら、地域に貢献できたという気持ちが味わえるようにしていきたい。



* 取組の様子がわかるような写真を数枚貼り付けてください。

(このデータを HP 等に掲載することがありますので、写真は必ず承諾を得たものを貼り付けてください。)